

新除草・調節剤

3 cm 耕起し、ガス抜きをして、さらに春まきでは7～10日間位、秋播きでは10日間位そのまま放置した後、は種する。

使用上の注意としては、は種床は耕起後、砕土をていねいにして、土塊を細かくすること。ガス抜き時の耕起は、地表面をごく浅く行なう。5 cm 以上 耕起すると、除草効果が劣る。は種後の覆土は、必ず処理した土を用いて、雑草の種子のはいつている土をかけないようにすること。処理前に土壌がひどく乾燥している時は、適度に灌水し、土壌をある程度湿らせてから散布すること。春まきでは種後ビニール・トンネルをかぶせる場合は、とくにガス抜きを充分にしてから行なうように注意する。原液が皮ふについたら、よく水で洗い落すこと。

トレファノサイド

トリフルラリン乳剤

シオノギ製薬株式会社

対象作物：ニンジン・カンラン・ダイコン・トマト・トウガラシ・チューリップ・タマネギ（本畑）・ハクサイ・（ナタネ・ダイズ・ラッカセイ）。

性状・作用特性：本剤は、有効成分 α, α, α -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N, N-ジプロピル-P-トリイジン 44.5% を含む乳剤である。非ホルモン性の接触害作用のほとんどない吸収移行型の土壌処理型除草剤である。選択性はイネ科に害作用が大きく、広葉には小さい傾向がある。土壌中の移動性は、土壌粒子へ吸着する力が強いので小さい。したがって、砂土でも安全に使用できる。雨の多い時や乾燥した時

でも安定した効果があり、気象条件による影響が少ない。

本剤の特質は、散布直後の土壌混和によって、少ない薬量で、すぐれた除草効果をあげ、しかも効力を持続させうることである。残効性が長いので、後作物にコムギ・トウモロコシ・陸稲・イタリアンライグラスなどはさける。特に秋冬作に土壌混和処理した時の次の春夏作には注意が必要である。

人畜毒性については、急性経口毒性マウスで $LD_{50}=1,810 \text{ mg/Kg}$ （成分）で、TLM50はコイで 4.2 ppm/48 hr で、魚貝類に対しては、一時に広範囲に使用すれば、多少の影響があるので、原液や残液を、川や池に流さないよう注意する。

使用方法：表面土壌処理の場合は、ニンジン・カンラン・ダイコン・タマネギ本畑で播種後～発芽前、または定植活直後に10アール当り150～300 cc を水100ℓにとかして散布する。（カンラン・タマネギは株間処理）。土壌混和の場合は、は種前7日～は種直前・または定植7日前～定植直前に150～250 cc を処理する。この場合は散布直後、土のかたまりを砕き、できるだけ早く（15分以内が望ましい）ていねいに5～10 cm の深さに混和する。

使用上の注意としては、できるだけ低圧で均一に散布する。砕土は、できるだけ細かくする。土壌が乾燥している時は、灌水して湿らせて使用する。作物にかからぬようにする。カンランの場合、気温が低いとき、生育が遅れることがある。直射日光をさけて保管し、火気に近づけないこと。